

男性保育者の要求について

の実態調査(一報)

—その3—

〇作新学院大 中村悦子
 中京大 佐々木保行
 筑協大 佐々木史子
 中京大 佐藤ナツコ

教育」がその目的となる。それゆえ、幼稚園教諭の側からは、「保育内容」により多くの焦点があたりつたと思われる。

そこで男性保育者を必要とする理由のより詳しい分析は、Q-2-7の具体的な仕事内容への期待についての自由記述とからませて検討しよう。以下期待のつよ順にまとめて述べる。

1) 男性にふさわしい保育内容を行なう期待……期待の集中した保育内容は、「運動」および「あそび」である。前者については、「運動面」「体育面」という全般的表現が多数あったが、具体的に例示されたものには、「すもう」「マラソン」「水泳」「体操」「とけ箱」「鉄棒」等、全身運動および体育的技術指導の必要のあるものが期待されている。次に「あそび」においては、「体と体のぶつかりあう」「運動量の多い」「冒険的な」「泥まみれの」「のびのびとした」等の表現がみられ、とくに序長男、男児の「エネルギーを真正面から受けとめられる」活力ある保育者像が求められている。

2) 男性が保育にかかわることへの期待……これは「家庭に父がいるように、保育の場にも男性がいるのが自然」とすることからの発想である。このため、母親的保育とならんで男性は父親的役割をとり、父親的ふれあいをもつことが期待される。他方、保育は男性がかかわるのが当然とする考えは、男性の保育者の仕事内容に区別あるいは差別をつけるべきではないとする意見に導かれ、女性偏重のへこみを改める必要を主張する考えもある。

しかし子どもの年齢を考慮に入れると、乳児においては男性保育者を縦向きする立場もある。

3) 保育者として男性的特性に対する期待……どのような点を男性的特性としていふかは別ものの見方、考え方のひろがり。a) 行動面での「力強さ」、c) 性格面での「男らしさ」等であり、従来一般的にいわれてきた「男らしさ」のイメージを超えたものではなかった。

これらのことから、より具体的に、本質的問題は男児が共働者としての実践の中で、今後表われて

くるものと思われる。

表8. 男性保育者の話題の有無(Q-2-11) (%)

	園 園		保 育 園		I
	私立	公立	私立	公立	
1.	21名(12.)	4名(44.4)	25名(20.9)	46名(36.5)	96名(22.3)
2.	145(82.)	4(44.4)	76(62.9)	75(59.5)	300(69.6)
N.R.	9(5.)	1(11.2)	20(16.5)	5(4.)	35(8.1)
T.	175(100.)	9(100.)	121(100.)	126(100.)	431(100.)

表8は現場や研究会で男性保育者の問題が話題になったことがあるかどうかの質問結果である。教諭・保育の総計のうち22.3%が「ある」、69.6%が「ない」と答えた。既述したように調査対象者の大多数は、現在直接保育にふさわわっている男性の保育者と接触したことがないため、話題にのぼったことが少ないのであろう。とくに教諭では話題になったことがあると答えた割合は12.0%で、88.0%はないと答えている。現に幼稚園では男性も教諭の免許の取得が可能であり、女性にくらべれば少数ではあるが実際保育にふさわわっている男性保育者もいることでもあるので、当然、保育の中で話題になってしかるべきと思われる。

一方、保育園では公立・私立とも幼稚園の場合よりも話題になったことの割合は高い。とくに公立では36.5%を示している。私立の保育も20.7%を示し、幼稚園教諭よりも高い選択率である。このように保育の場が高い選択率を示したことは、今回は省略するがQ-2-12で具体的な話題の内容について質問した(FA)がそれとあわせて差支えにより明白になる。つまり保育が全国大会の研究会などの出席を機に知り得たことを話題にしたり、あるいは実際保育の過程で障壁にあつたとき、またQ-3-3で質問した「保育園保育、保育士」構想の現場での討議等が背景にあると思われる。

要約：男性保育者を必要とする見解は園長、主任および教諭、保育、それぞれ67.4%、67.1%という高率を示した。なかでも公立の保育は79.4%、一方私立教諭は59.4%であった。必要な理由のうち主なものは1) 男性も女性もいることが当然、2) 男性にふさわしい保育内容がある、3) 男性への解放により保育や保育の社会的地位の向上であった。男性に期待した仕事の内容では、男性的特性をいかせる運動、あそびまた、父親的ふれあいや男らしさ、というものであった。これらは今後、男性保育者と共働する中で、より具体的に、本質的側面への指摘が注目されてくるであろう。